

1stホールディングス株式会社様

Google Appsの導入に際し、「Gluegent Gate」を活用。 セキュリティ確保とコスト削減による運用管理の負荷軽減を実現。

1stホールディングス株式会社は、ウイングアーク テクノロジーズをはじめとしたソフトウェア開発・販売会社6社のグループ企業を束ねるホールディングス・カンパニーだ。メールやグループウェアなどのコミュニケーション基盤の統合、コスト削減ならびに管理負荷軽減を目的に、サイオステクノロジーの提供するクラウド型セキュリティサービス「Gluegent Gate」を活用しGoogle Appsを導入。スマートフォンとの連携も実現し、業務の生産性を向上させた。

Company Information

導入目的

コミュニケーション基盤の運用負荷軽減

効果

- ・運用コストや人的負荷の軽減
- ・コミュニケーション基盤の統合による生産性向上
- ・クラウド活用による、導入コスト軽減と短期稼働

会社名

1stホールディングス株式会社
(2009年11月、ウイングアーク テクノロジーズ株式会社から商号変更)

設立

2004年

資本金

1億3,312万4,905円 (2010年10月6日現在)

所在地

東京都渋谷区円山町28-5
1st渋谷ビル

業種

ソフトウェアの販売・開発企業5社、
セキュリティサービス企業1社の合計6社で
構成されるグループ企業を束ねる持株会社
(2011年6月15日現在)

サービス概要

- ・ Google Apps for Business
- ・ Gluegent Gate
- ・ Gluegent Apps 共有アドレス帳

コスト削減の実現と、 社員のPCにデータが蓄積される リスクを回避したかった

1stホールディングスが、メールやグループウェアなどのコミュニケーション基盤の刷新を検討しはじめたのは2009年末。その背景には、次のようなものが挙げられる。

まず、コミュニケーション基盤を統合することで、コスト負担や運用管理の負荷を減らそうという目的。次に、より利便性の高いツールに変えることで、生産性を向上させようという狙いだ。

コスト負担、運用管理負荷への対策について、情報システム部の佐藤岳彦氏は次のように語る。

「1stホールディングスを含めると合計7社のメールシステムやグループウェアなどの管理を行う必要が出てくるため、できるだけ管理負荷を減らしたかったのです。グループ発足直後はすべての会社が別種類のメールシステムを使っていましたが、バージョンアップやメンテナンスの費用を考えるとコミュニケーション基盤を一本化すればコストも減らせると考えました」

また、情報システム部の石川亮氏は次のように語る。

「オンプレミスで統合基盤を作るというのは、経済的にも時間的にも無理があるという結論になりました。信頼性の高い事業者のクラウドサービスを活

用することで、コストも安く、短期間で稼働させることができます」

クラウドサービスにおけるセキュリティ面での懸念について石川氏は、「外部からの攻撃やPCの紛失などは万全の注意をしても起きてしまう可能性があります。それと比較して、信頼できる事業社が管理するサーバで保管すれば安全性の高い運用が期待できます。社員のPCにメールデータを残さないというのが、1つのポリシーでした」

では、数あるメールのクラウドサービスの中で、なぜGoogle Appsを選んだのだろうか。

その理由について佐藤氏は、「複数のクラウドサービスを総合評価し、25GBという圧倒的なメール容量の多さや、標準搭載されているサービスが充実していること、サードパーティ製品との連携のしやすさなど様々なメリットを持ちつつも、コスト面で最もリーズナブルだったのがGoogle Appsでした。コスト試算ではGoogle Appsの代表的競合製品とされる大手A社サービスの約2分の1、B社サービスの約3分の1でした」と語る。

「Gluegent Gate」で、 セキュアな環境を短期間で構築

導入にあたっては、セキュリティ面での懸念を払拭するために、サイオスのクラウド型セキュリティサービス「Gluegent Gate」が活用され

た。Gluegent Gateは、シングルサインオン、PCやモバイルからのアクセス設定、全般的なアクセス制御、アカウントの一元管理などをパッケージで提供するサービスだ。

「Google Appsは、自由度の高いサービスであるがゆえに、管理側で一定の制限をかける必要があります。しかし、Gluegent Gateを使うことで短期間で、自社の要件を満たす環境を構築できました」（佐藤氏）

経験豊富なサイオスのサポート力・技術力を評価

また、サイオスのサポート力や技術力についても、「レスポンスが早く、提案力も高かった。技術的な質問に対する回答も迅速丁寧だったし、社内の導入説明会などにも積極的にかかわってくれました」（石川氏）と、評価が高い。

例えば導入時に、Gmailとメールの誤送信防止アプリケーションとを連携させる必要があった。その際もサイオスのスタッフが原因を徹底的に調査し、トラブルの原因がGmail側ではなく誤送信防止システムにあることを突き止

め解決した。

早くからGoogle Appsの導入支援サービスをスタートさせ、業界No.1の60万アカウント以上への導入支援実績があるサイオスは、サポート業務を専門とする部門をもち、導入から運用までを一貫して無償サポートしている。こうした、サイオスの技術力・サポート力が、今回のGoogle Apps導入にも活かされたわけだ。

スマートフォンとの連携で、生産性向上にも貢献

こうして、2011年1月から1stホールディングス、ウイングアーク テクノロジーズ、開発会社であるフォー・クルーの3社でGoogle Appsの正式運用が開始された。

また、Google Appsの導入と並行して、営業スタッフを中心にスマートフォンを導入。従来外出先ではメールチェックのたびにPCを立ち上げていたが、そうした手間がかからず時間を大幅に節約できるようになった。

さらに今後は、未導入のグループ企業にも順次Google Appsの導入を進め

ていく予定だ。そのために現在、FAQの整備や、Google Appsの機能であるGoogleサイトを利用した社内ポータルサイトの運用など、より深化させたGoogle Appsの活用方法を模索しているという。

Google Appsを活用した共通のコミュニケーション基盤が、1stホールディングスのさらなる成長に役立ちそうだ。



情報システム部
佐藤 岳彦 氏



情報システム部
石川 亮 氏

■サイオスのクラウド型セキュリティサービス「Gluegent Gate」

